

## 2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 13 日作成)

小委員会名	設計・生産の情報化小委員会	主 査 名：中元三郎 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	情報システム技術本委員会	委員長名：新宮清志
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>設置目的：他産業を含めた各業界の動向を知り、3D-CAD による設計・生産のプロセス変化を考え、プロセス変化をもたらす先端利用技術・動向の調査、利用への可能性、問題点を議論し方向を見極め提案・提言する</p> <p>活動計画：本小委員会には、設計・生産の情報化実態調査 WG、設計・生産の先端利用技術調査 WG、先端技術の普及問題検討 WG、データ流通ガイドライン改定 WG の 4WG を設置し WG 単位の活動を主たるものとする。</p> <p>(2005 年度) 小委員会および WG を年 11 回開催し、先端利用技術に関する検討・研究を行なう。情報シンポジウム研究集会「設計・生産の情報利用は進化するか」(50 名参加)を開催。研究協議会資料「新たな CAD とふるまい変化への期待」を投稿。</p> <p>(2006 年度) 小委員会および WG を年 19 回開催し、建築業界での 3D-CAD 普及のキーポイント検討と利用実態調査を実施。情報シンポジウム研究集会「プロセス変化への対応」「第 11 回設計情報化実態調査アンケート 2006 報告」(46 名参加)を実施。</p> <p>(2007 年度) 4WG での活動を 3WG と改め「データ流通ガイドライン改定 WG」は情報収集のために当面廃止する。会員への情報提供は研究集会などを通じて行なえるよう引続き企画する。プロセス変化への動向調査や海外の事例研究を行なう。他小委員会との連携活動の模索を行なう。</p> <p>(2008 年度) 4 年間の成果を取りまとめ、総括的な報告を研究集会などでの実施を検討。第 12 回設計情報化実態アンケート調査を実施、報告する。情報連携技術小委員会の「建築生産情報統合ガイドブック第 4 版(仮)」への投稿を予定。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：有、2005 年度 1 名(普及問題検討 WG)</p> <p>中元三郎(安井建築設計)、榊原克巳(グラフィソフト)、山口重之(京都工芸繊維大)、加賀有津子(大阪大学)、本江正茂(東北大学)、苅谷邦彦(山下設計)、山梨知彦(日建設計)、東山恒一(清水建設)、玉井洋(鹿島建設)、田部井明(竹中工務店)、猪里孝司(大成建設)、瀧澤博司(コアシステムデザイン)、溝口直樹(ダイテック)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設計・生産の情報化実態調査WG：CAD 化実態アンケート調査</li> <li>・設計・生産の先端利用技術調査WG：先端 IT 技術調査および実用可能性の検討</li> <li>・先端技術の普及問題検討WG：プロセス変化、業務変革の可能性検討</li> <li>・データ流通ガイドライン改定WG：設計情報流通の利用ガイド作成</li> </ul>	
2006 年度予算	132,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://aij.cn.cst.nihon-u.ac.jp/modules/seisan3/">http://aij.cn.cst.nihon-u.ac.jp/modules/seisan3/</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	12 回程度 (WG を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	

<p>催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)</p>	<p>1. 第 29 回情報・システム・利用・技術シンポジウム小委員会企画研究集会 「プロセス変化への対応 / 第 11 回建築 CAD 利用調査報告」 参加者数 46 名 『第 29 回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集』所収</p>
<p>大会研究集会</p>	
<p>対外的意見表明・パブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>当初計画していた活動目標に基づき、WG を中心に活動し下記の成果を得たが、一部活動成果を出せずに休止する WG もあった。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. IT 先端利用動向を組織、アトリエ、教育の分野から報告・討論ができた(第 29 回情報・システム・利用・技術シンポジウム「プロセス変化への対応」)。</li> <li>2. 隔年行っている情報化実態調査を実施し第 29 回情報・システム・利用・技術シンポジウムにおいて分析、報告し資料化ができた。</li> <li>3. 設計プロセス変化への現状分析を実施したが、明快な方向性が見出せなかった。</li> <li>4. 海外の先端 ITC 利活用状況を文献やゲストから入手、分析・検討に着手。</li> </ol>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 懸案となっている建築情報教育小委員会との情報共有と合同研究協議会開催の模索を継続する。</li> <li>2. 建築に応用可能な先端利用技術の定義と発掘および俊敏な情報入手方法の検討を行う必要がある。</li> </ol>
<p>その他</p>	<p>「データ流通ガイドライン改定 WG」は情報収集のみを行ってきた。設計情報データ利用形態は大きく変化しつつあるが、国内の動きは今だ未成熟であり、この動きが顕在化し始める時点まで待機することとし 2007 年度以降は WG を当面廃止する。</p>